

IT導入、飛躍のチャンス

中小企業こそIT導入によって飛躍するチャンスは大きい。しかし、効果をあげるどころか失敗に終わるケースも多々見られる。「途中で挫折した」「導入したが全体の3割ぐらいの機能しか使っていない」「新しい事業や取引形態の変化に対応できない」といった声は、よく耳にする。原因ははつきりしている。

企画的な仕事を進める力（プロジェクトマネジメント力）が不足しているからだ。その結果、外注に丸投げしたり、経営感覚のない現場担当者が現状通りのオペレーションを要求したりして漂流する。

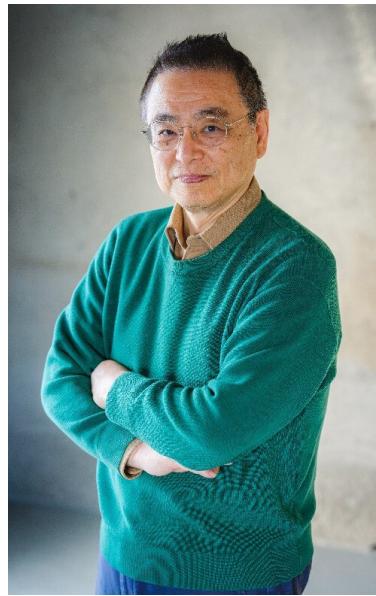
ITC-Pro東京は、経済産業省の推進資格であるITコーディネーターを中心に行なう。各分野の実務的なプロが会員となっている。失敗経験のある企業がいろいろ探しあ

て、訪れるケースが多い。

ITC-Pro東京・谷巣代表理事

中堅・中小の現場から

属人性排し組織で仕事を



《会社概要》

▽本社	東京都渋谷区
▽事業概要	中小企業向け総合・ITコンサル
▽設立年月	2017年8月
▽会員数	約150名
▽売上高	非公開



2023年は初釜を開催し、経営者とともに世界観を広げた

一度失敗しているから、我属人性を排し、組織的に仕事ができるようになる」「データの話が通じて「よく分からぬけれど、やってみよう」と思ってもらえる。

「駆け込み寺みたいだね」と言われることもある。つまるとこでは、「経験」を売っているのだと思う。自社だけではなくてもいいからITの話を聞くところからI-Tの話を聞いて強固な企業体質にする」ことを目的にしている。プロジェクトを通して、経営者と一緒にIT導入に際して、半数の企業が淘汰される重要なことは「自社の特徴に適したシステムにする」ことである。どちらかというとITに強い経営者に対し、「理解で問題をシャワーのように浴びせていればなんとなく感覚がつかめるようになる」という趣旨で行っている。

2023年は初釜を開催してみた。キーワードは「原点回帰」。ITを取り口として、経営陣も従業員も働きやすく、くどう柔軟な発想・対応で

中小企業は経営者の世界観決めていけばいい。そういう者とともに探るのが狙いだ。システムを作ることによって、半数の企業が淘汰される中小企業のIT導入に際して、何が新しい成長企業にならうか。何か新しいことを始めたときにも素早く対応できるためのシステムという判断基準のもと、強みをさらに尖らせた。自社の競争力を高めるため。自社の競争力を高めるためのシステムといふ判断基準のものと、強みをさらに尖らせた。何が新しいことを始めたときにも素早く対応できる体制が整う。人を生かし、成長していく企業の経営者たちとの真剣な交流が一つずつ増えていくことを楽しみにしていくアプローチが必要になる。強みでないところは汎用的るものを使って効率化していくアプローチが必要になる。強みでないところは汎用的

II 隨時掲載

2023年(令和5年)5月29日月曜日

許諾番号 30093796 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。

日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。